

4 番（小川義昭君）

御承知のとおり、少子高齢化は生活構造、家族構成に大きな変化をもたらし、核家族の進行に一層の拍車をかけました。これに伴い、本来の家族の形態、役割というべき家族間の相互扶助、お互いが面倒を見合うという機能が著しく低下したことは言うに及びません。

介護の現場にもその弊害が出ているようです。高齢者が高齢者を介護する。すなわち介護をする人、介護を受ける人がともに 65 歳以上のいわゆる老老介護の家庭が増加しています。また最近では認知症の患者を介護している人が認知症になる認認介護という造語も聞かれています。

老老介護の問題は、核家族化による家庭における介護力の低下及び限界により、介護に係る負担が危険水域まで増加していることが挙げられます。高齢者の場合、完全回復が期待できないことなど、病気の慢性期状態が多く、その介護も長期にわたります。介護者の介護疲れからくる心身的負担が増大し、介護者が健康を損ない、介護不足となり、被介護者の病状が悪化するといった悪循環が繰り返されています。

最近、老老介護世帯の終わりの見えない心身の疲れや将来への絶望感から、殺人や無理心中、虐待などの事件が後を絶たないとマスコミ等で報じられるなど、大きな社会問題となっています。この介護問題の現状には、早急な対応が必要になっていると考えます。介護制度発足当時の家族の手による介護を基本とされた制度設計に無理が生じているわけであります。

この老老介護に対して、本市としての安心ネットワーク体制の再構築が必要と考えますが、本市の老老介護の実態をどのように把握されておられるのか、4 点目の質問として伺います。

その上で、老老介護には、家事、食事、買い物など、介護者の精神的負担や経済的負担を減らすような施策が必要かと考えます。介護家庭の現場の問題点を考えると、家庭環境や地域環境にも踏み込んだ白山市独自の取り組みが考えられないでしょうか。市長の御所見を伺います。